



研究者 **小林一輝** (木曾町立開田小学校)

共同研究者 **伊藤純郎** (筑波大学 名誉教授)

テーマ

歴史を語れる子どもたちを目指して

歴史を語れる子どもたちを目指して

満蒙開拓の授業を構想するにあたり、共同研究者の伊藤純郎先生からご示唆いただいたのは、①満蒙開拓だけではなく、日本や世界の歴史を含め総合的に学ぶことのできる単元を構想すること②満州移民のもつ東アジアに対する加害性と国策に翻弄された移民の被害性の両面に着目できるようにすること、の二点である。

子どもたちの住む開田高原にも少なからず満蒙開拓とかかわりがあった記録がある。①については、開田高原や木曾郡の歴史に着目し、地元を入口として、長野県、さらに日本、と地域の枠を大きくして「どうして満州に渡るようになったのか」を時代背景を顧みながら学ぶことのできる展開を考えている。

②については、当時満州に暮らしていた現地人の語り（インタビュー資料）を扱いたいが、なかなかそのような資料がない。仮に教師が子どもの学びに最適な資料を見つけられたとしても、それだけで子どもたちがその方たちの視点で満蒙開拓に関する見方や考え方を広げていくことはできないだろう。この点について、引き続き研究を進めたい。

私は、満蒙開拓平和記念館に足を運んだり、戦争体験を扱った授業についての先行研究を参照したりして、語り部さんやこの歴史を残すべく活動されている方々の思いに触れてきた。その中で、子どもたちに「戦争体験を後世に伝えていかなければならない」と教えていくだけでなく、「なぜそれを継承しなくてはならないのか、このことを通して子どもたちはどのようなことが学べるのか」を問い直す必要があると強く感じた。満蒙開拓をテーマにして授業を構想するためには、満蒙開拓という「事実」を捉え地に足をつけて学ぶこと、そして、それを語ってくれた方々の「思い」は何なのかを受容できるようにすること、この2点が大切であると考えている。

歴史がただの「あったことの記述」になるのではなく、自分や社会とのつながりを感じることができる、そして、子どもたちが歴史について語ることのできる授業づくりを行ってきたい。



共同研究者 伊藤先生から

満蒙開拓は信州の歴史を学ぶうえで不可欠なテーマです。国策に翻弄され満州の既墾地に入植した満州移民には加害者の側面があったことや、引き揚げ・中国残留邦人など現在にも繋がる課題であることに、子どもたちが気付く授業を期待しています。

～日程～

- ① 開会式 13:30～13:40
- ② 研究発表 13:40～13:55
- ③ 授業公開 14:05～14:50
「満州移民を中核に戦前・戦後について考える(仮)」
- ④ 授業研究会 15:00～15:40
- ⑤ 講演会 15:40～16:20
- ⑥ 閉会式 16:30～16:40